

## 薬剤師が児童発達支援事業

## 多様な進路、薬学生意識を

薬学生は視野を広げて自身のキャリアをしっかり考えてほしい……。そんな思いから、京都薬科大学薬品分析学分野の武上茂彦教授は22日、研究室のイベントの一環として外部講師を招き、学内で薬学生向けの講演会を開いた。発達障害の未就学児や保護者の支援に取り組む「NPO法人発達はじめの一步」理事長で薬剤師の染川武之氏が壇上に立ち、武田薬品のMRなどを経て40代後半で起業した経緯を説明。「学生のうちに起業しても良い。失敗しても学びはある」とエールを送った。

## 京都薬大で講演会

染川氏は、1996年に京都薬大卒業後、武田薬品にMRとして入社。医療政策・アクセス統括部を経て、2020年に精神・小児精神科領域北東北エリアチーフに就いた。

注意欠如・多動症(ADHD)治療薬の情報提供活動を統括する立場で、医師ら関係者に発達障害の治療やケアの現状を聞くうちに、未就学児に対する早期療育の重要性を知る。「薬ではなくても、子供の未来

は、育育では子供を褒め、自己肯定感を高める。染川氏は、「発達障害は病気ではない。その子の特性だが、

発達障害が引き起こりや不要な登校を引き起こし、それがうつに繋がると指摘する。うつは自殺につながる。この流れをどこかで断ち切らなければいけない」と呼びかけた。

起業して約6年生や1年生ら30人以上が講演に聴き入った。薬系

大学を卒業し、薬局やドラッグストア、病院で働く薬剤師は多いが、進路はほかにもたくさんある。

染川氏の場合、製薬企業の一員として働く中で社会課題を見つけ、自ら起業して解決に取り組む道を選んだ。薬学の卒業生が多様なキャリアを描くことで、薬剤師の仕事の幅は広がる。社会の認識もきっと変化するだろう。



染川氏